

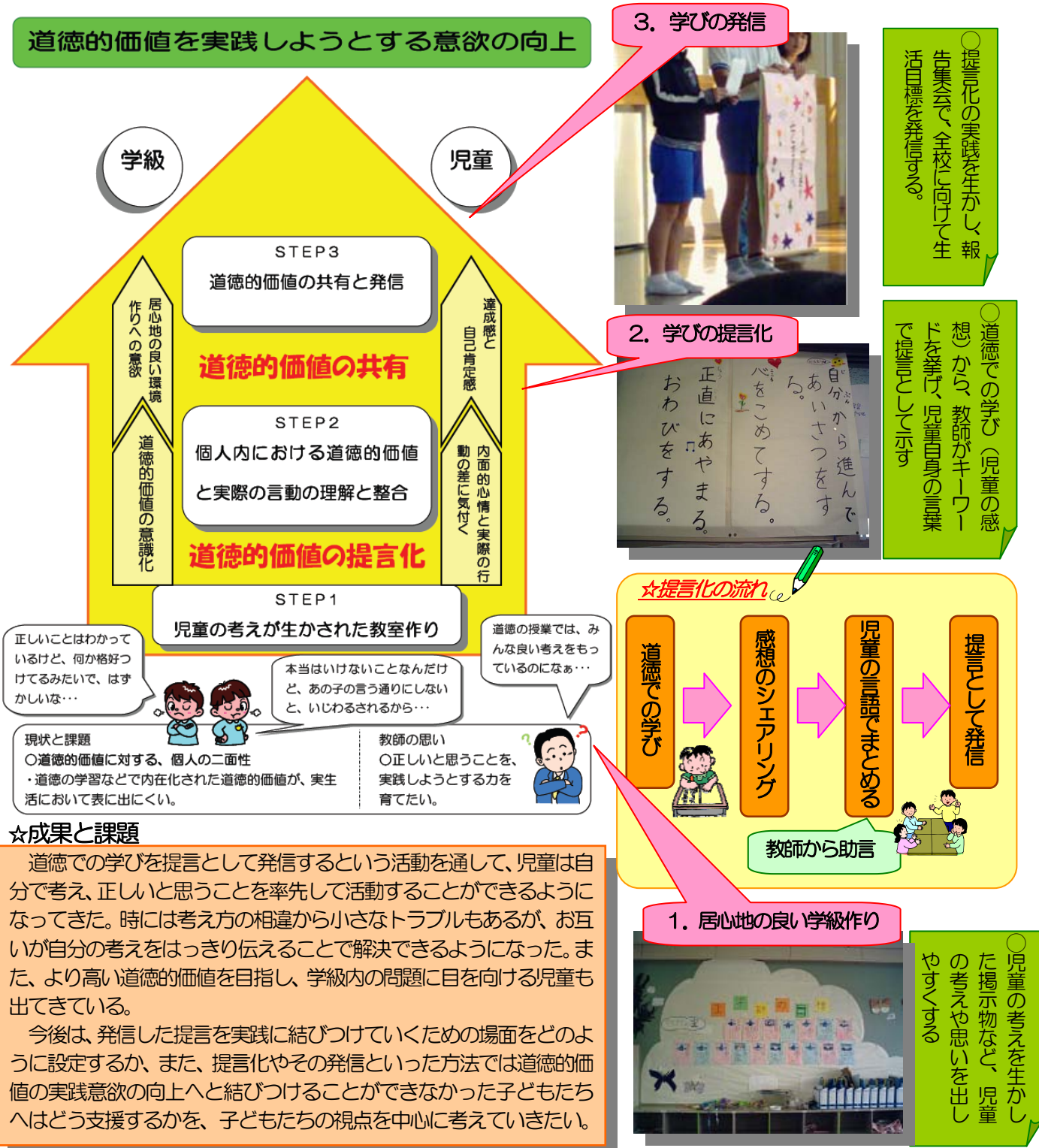
内面的な道徳的実践意欲を高める研究 — 道徳の時間での学びの提言化を通して —

道徳班 吉田 修 (小学校教諭)

☆研究の概要

「良いこと（悪いこと）とわかっているけど〇〇できない」ということは、人間誰も経験することである。このように内在する「道徳的価値」と実際に表出される「道徳的価値」の「差」を、道徳の時間の学びを提言として発信する活動を通して児童に気づかせることができるのではないかと考えた。児童自身が「提言」としてまとめ、発信していく過程を繰り返すことで、道徳的価値を実践に結びつけるために、自分がどうすればよいかを積極的に考えることができるようになり、児童が自分なりに道徳的価値を実践しようとする意欲が高まるのではないかと考え、本課題を設定した。

☆全体構想図



☆成果と課題

道徳での学びを提言として発信するという活動を通して、児童は自分で考え、正しいと思うことを率先して活動することができるようになってきた。時には考え方の相違から小さなトラブルもあるが、お互いが自分の考えをはっきり伝えることで解決できるようになった。また、より高い道徳的価値を目指し、学級内の問題に目を向ける児童も出てきている。

今後は、発信した提言を実践に結びつけていくための場面をどのように設定するか、また、提言化やその発信といった方法では道徳的価値の実践意欲の向上へと結びつけることができなかった子どもたちへはどう支援するかを、子どもたちの視点を中心に考えていきたい。